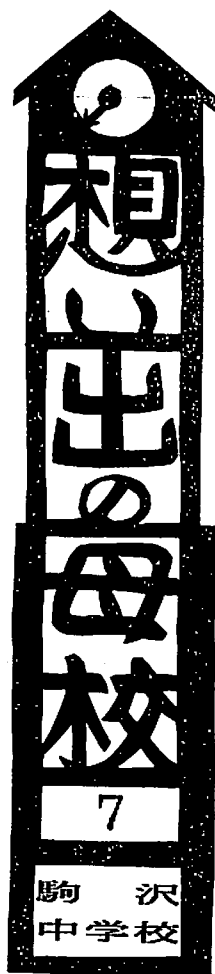


No.72039

発行 13ひろば編集委員会
責任者 長谷川 将巳
事務局 上馬出張所内
住所 世、上馬 4-1-3
電話 (3422) 7415



駒沢中学校

校長 居駒 永昭

昨年の四月に着任して地域を歩いたり、自転車でも散策したりしました。駒沢公園、小泉公園、向井瀬言アトリエ館、御土資料館、駒留八幡神社等、自然と文化の香りが漂う駒沢の地です。なんとといっても駒沢の地名が世界に鳴り響いたのは、一九六四年、東京オリンピックの時の時でした。日本対ソ連の女子バレーボールの決勝戦が駒沢公園の体育館で火蓋を切ったのが昨日のように思われます。そして、この時の決戦の様子は世界中が見守っていたのでした。私は校地の南西に面したタンチ山の一角が大好きです。そこには、自然がいっぱいあるのです。フキノトウ、ゼンマイ、ワラビ、タラノメ、そして、けやきを中心に大木が密林をなして



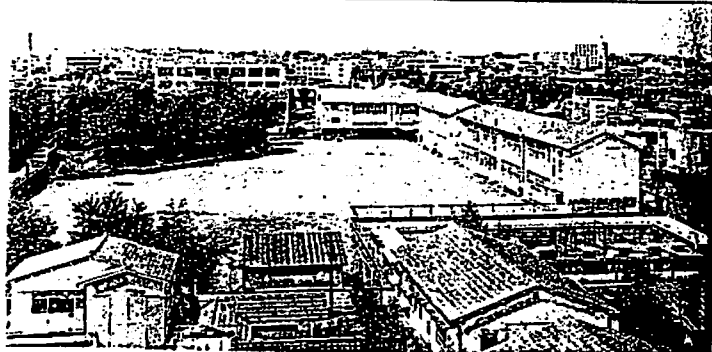
くもの巣が蚊や蝶を待ちかまえているのです。そして笹竹がところ狭しと地面をはっています。この笹竹は本校の校章になっているのです。笹の根は鯛の目のようにぎっしりとつながり非常に丈夫です。すなわち、本校の校章は人との繋りや和を大切にして力強く成長していきたいという願いから、この校章ができたこと記録に記されていました。私は一学期間の駒沢中学校の学校生活をふり返って生徒に向けて次のような記をしました。

駒中の思い出

長谷川 将巳

私が駒中生になった頃は学校の辺りは畑が多く、二階建ての校舎からは遠く富士山が見えました。校舎も古く階段などは昇降のために「ギシギシ」と音を立てていました。又、年々生徒数が増し教室数が不足して二

年生の頃は音楽室や理科室までが教室に当てられ、多い時には毎時間カバンを持って教室を移動したこともありました。勿論、講堂（体育館）などはなく、雨天以外は入学式、卒業式は校庭で行なわれました。そのような環境の中でも我々は自分達の学校に誇りを持っていました。それは現在でも親しまれている「タンチ山」があったからです。グラウンドも今より広く、タンチ山もグラウンドの一部のよ



昭和42年 校舎全景 (航空写真)

駒沢中の歩み

うにかけ登っては通りぬけて下りました。休み時間には「かくれんぼ」をしたたり「おにごっこ」をしたりして遊んだ思い出は今でも忘れられません。

開校 昭和二十二年五月、都立駒沢実践女学校跡（駒沢小学校構内）で開校

昭和二十三年敷地買収、二十四年一校舎落成（木造八教室）

校旗、校歌 昭和二十五年制定

増築 昭和二十六年より三十四年にかけて、五次にわたる増改築（延三十二教室と理

音教室、図書館）鉄筋校舎 昭和三十五年より五十五年にかけて、五期にわたる鉄筋校舎増改築

プール 昭和三十九年、五米六コース、六

十一年新プール完成

完成、六十二年新体育館、格技室に加えて特別教室等落成

懐かしい駒中

平石 忠秋

昭和三十年にすぐ近くに
松倉中学校が誕生し、同期
(十期)生もその区域の方
は転校していきました。残
った生徒全員で両側に並ん
で見送りました。校舎は木
造、一年生の時は旧校舎二
階の一室で使った。

毎週月曜日の一時間は
中庭で朝礼を行い、雨の場
合は教室でホームルームと
いう形でした。中庭はアス
ファルトで、日差しが強い
時は靴の底にベタベタくっ
着くので足踏みしながら
お話を聞いたものです。

たんち山が本校の誇りで
「たんち山の駒中」か「駒
中のたんち山」かという位
世間知られており、その
面影を後世に残して頂ける
様願ってやみません。

グラウンドは赤土で、雨が
降れば滑りやすく、霜が降
りると4ヶクチャ、日照
りが強いのは砂漠のようだし
た。野球で滑り込みする
と土煙が上り、体中泥だら
け、ユニホームは勿論下着

まで汁と埃が赤く染まって
洗っても落ちませんでした。
又、グラウンドのそばに中
深さとも一、五米の蓋のな
いトブ川が流れていてよく
ボールが落ち、地面にへば
りついて流れにくるボール
を拾うのに苦労しました。
現在では何時でも同じ状
態でグラウンドが使えますし
建物も整い、立派な駒中
校舎が完成され、生徒達が
気持ちよく勉強出来る学校に
なつて、卒業生として大変
嬉しく思います。

タンチ山の 夫婦たぬき



(タンチ山にみかめる民話
を、ご存知の方も多いと思
います。ご紹介いたします。区
広報「駒中」世間の民話
よりは、原文のまま転載)

「タンチ山に、とつぜんお
寺を建てることが決まりま
した。そんなある日、山ふ
もとの百姓彦兵衛にも、参
道をつくるのにじやまにな
るから立ち退けと、村役人
からのお達しがありました。
彦兵衛はお役人に「山を退
けられるたぬきやうすが、か
わいそうでなりませぬ。そ
れだけが心配です」と申し
あげました。

お役人は、彦兵衛夫婦の
たつての願いに、家やその
まわりの大木や雑木などの
すま残し、そのかわりに畑
の一部をひりくことを約束
しました。

彦兵衛の家の縁の下で、
耳を立ててこの話を聞いて
いた夫婦たぬきは、ほつと
したのです。りすの親子も
小さな目がしうろく熱くま
した。

何年かすぎました。タ
ンチ山に立派なお寺がま
きました。そして村は、大昔
しんの祝いのことで喜びに
まぐれたのです。
ところがどうしたことが
年がかわると、春のたつ巻
とるやうに村がみぢぢれ、

また、夏から秋にかけて冷
雨がつづきました。サトイ
モ畑に花がくるって咲くな
い、ふしぎな雨がふづくの
です。

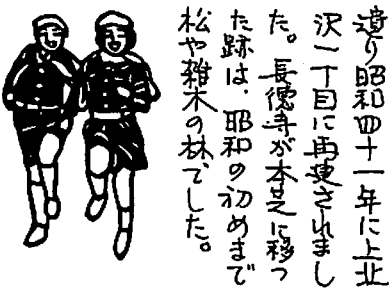
その年は、彦兵衛の家で
も不作でした。夫婦は子ど
もをぬかせたあと、あすか
らの糧を心配して、いました。
「トン・トン」
うらやまをたたく音がしま
す。彦兵衛が板をきくと
開けると、たぬきが大きな
腹づつみに一俵ずつ、米俵
をかかえていました。その
うしろにも子どもたぬきが、
どうぞうと小さな俵をかか
えていたのです。

彦兵衛がふしぎに思つて
いると、タンチ山のたぬき
が思返しにきたというので
す。あくる日も、同じころ
またやまたたき音がします。
こんどはたぬきにつれられ
た大せいのりすが、大豆や
小豆や麦を、小さな両手で
運んできました。

りすもたぬきに買けすに、
せつせと思返しにきたので
す。
⑤ タンチ山に建立された
お寺は、一四八八年に良

成高が開基した長徳寺で
あるといわれます。

寺は一五五九年に本堂
(現港区)に移されました。
たが、戦災で消失、寺宝は
遠く昭和四十一年に上北
沢一丁目に移されました。
長徳寺が本堂に移つた
跡は、昭和初めまで
松や雑木の林でした。



交通少年団鼓笛隊

一入団のお話
上馬東町会に交通少年団
が誕生して二十年になりま
す。小学校一年生から五年
生までを団員として、交通
のきまりとマナーをしっか
り身につけさせ、優しさ、
思いやりのある人間につく
るを目指しています。

鼓笛隊の楽器は大太鼓、
中太鼓、小太鼓、鉄琴、等
子さまに達したもので、練
習は毎月一回日曜日に、音

大の大沢和孝先生を講師に
世田谷警察署の四階で行
っています。

少年団の団服と楽器は申
意してあります。

当町会の子供さんに限り
ませんので、大せいに入団
くださるよう誘いたいし
ます。入会金、月会費はい
りません。

問合せ、お申込はたの
役員に電話どうぞ...

- 大竹利一(団長)
- 田上敏子
- 陸田敦子
- 山本知男

編集後記

学校シリーズも大詰めさ
むかえ、あと一校を残す
のみとなりました。

今回の号が大変遅くなり
ましたことをお詫びいたし
ます。

又、校長先生には早くか
う原稿をいたした方が今
日まで延びくになつてし
まったことも本当に申訳
なく思っております。

これからまた皆さまに愛さ
れるひろばにしたいと願
っております。(M.H.)